



「政治文化」と政治参加

AV&Inglhartに対するjcds200jcs3の応用の詳細な分析例がp8に用意してある。



今日のポイント

- 「政治文化」とは
 - 「日本文化」—イントロダクションとして
 - タテ社会・甘え
- 政治文化についての代表的な研究
 - 市民文化論
 - アーモンド, G. A., ヴァーバ, S. 1963, 『現代市民の政治文化』石川一雄他訳 勁草書房.
 - 脱物質主義論
 - イングルハート, R. 1990, 『カルチャーシフトと政治変動』村山皓他訳 東洋経済新報社.



日本の政治文化

- 日本特殊論
 - タテ社会 — 中根千枝『タテ社会の人間関係』
 - 甘え — 土居健郎『甘えの構造』



日本の社会構造(SS)の特徴1:場の原理

- 場と資格
 - 職種より会社名
 - 「家」の優先
 - エモーショナルな結びつきの必要性
 - 家族ぐるみの雇用関係
 - 「ウチの者」・「ヨソ者」→ 非社交性
 - 単一社会(複数の「場」に所属することができない)
- 「タテ組織」の基本構造(70-)
 - 「親分・子分」関係・序列関係
 - 年功序列と終身雇用
 - 能力平等観



土居の「甘えの着想(1章)」

- カルチャーショック
 - 海外旅行で経験・文化の違いを感じたとき
- 2つのポイント
 - 言語学的アプローチ
 - 「甘え」概念のないところでは、その現象が「見えない」
 - 日本人理解のキー概念
 - 甘え(義理人情)



「甘えの世界(2章)」

- 「タテ関係の重視」:その原因としての「甘え」の精神
- 甘えのキーターム
 - 義理と人情
 - 他人と遠慮
 - 内と外
 - 罪と恥
 - 甘えと自由



A&V 研究の目的: 民主的な文化の浸透のメカニズムの理解

- 1960年代の民主主義国家の台頭
- 浸透されるべき「政治文化」の内容の理解
- その測定方法の開発

“With such knowledge we can speculate intelligently about ‘how much of what’ must be present in a country before democratic institutions take root” (10)



政治文化:A&Vの概念定義

- “The political culture of a nation is the particular distribution of patterns of orientation toward political objects among the members of the nation.” (ep. 14-15, jp. 12)

3つの指向

4つの対象



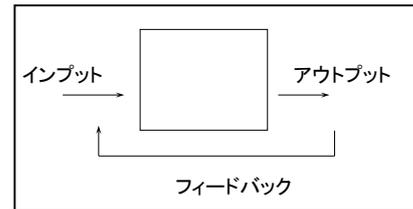
政治文化:A&Vの作業定義

- 図1 政治指向の尺度 その種類と対象 (jp.14)
 - 指向: (以下の4つの対象について)
 - 認知 (知識があるか)
 - 感情 (愛国心のような好意的な感情があるか)
 - 評価 (より客観的に善し悪しの判断ができるか)
 - 対象:
 - 政治一般
 - インプット
 - アウトプット
 - 自己



政治文化:A&Vの作業定義

- 「質」についてのテストI



テストI: これら政治一般について、認知・感情・評価を持っているか
持っていれば○、持っていなければ×



政治文化:A&Vの作業定義

- 政治文化の種類

	政治システム			政治的 自己
	一般	インプット	アウトプット	
未分化型	×	×	×	×
臣民型	○	×	○	×
参加型	○	○	○	○



何が明らかになったのか

- 「参加型」の市民の比率 → 市民文化の豊かさ
- アメリカ・イギリス・ドイツ・イタリア・メキシコの国際比較と
- それぞれの国内の種類間の市民比較から
- 参加型の市民の存在とそれが占める比率(市民文化の豊かさ)が、民主主義の発展・安定に重要な役割を果たすことが明らかにされた



「市民文化」と政治参加:jeds2000(表3)

	政治文化	未	臣	参	
• 投票依頼	19	18	<	33	
• 議員接触	0	<	9	6	
• 役所相談	3	<	10	<	17
• 請願書	7	<	29	<	44
• デモ・集会	2	<	6	<	13
• 地域活動	3	<	16	<	30
• 自治会	21	<	25	<	42



インゲルハート(脱物質主義論)の研究目的

- 実証的に政治文化を理解しようとする点で A&Vと共通
- ところが、A&Vとはまったく別のとらえ方
 - 市民の経済的価値観に注目
 - 物質的か脱物質的か



政治文化:インゲルハートの概念定義

経済的な価値観によって規定される、政治に対する態度(要求・期待・インプット)の総体

2つの基本的な仮説

- 欠乏仮説(マズローの欲求階層理論)
 - 「身体の安全」 ↔ 「自己実現」
 - (具体的な欲求) (抽象的な欲求)
- 社会化の仮説
 - 人格形成期の経済状況が個人の価値観を規程



政治文化:インゲルハートの作業定義

■国家目標として大切なもの

- | | |
|-------------------|------------|
| • 国内の秩序を維持する | 価値観 |
| • 政策決定に国民の声を反映させる | 物質主義的(M) |
| • 経済を安定させる | 脱物質主義的(PM) |
| • 言論の自由を守る | 物質主義的(M) |
| | 脱物質主義的(PM) |

■2つまで大切と考えるものを選択させる

- | | | |
|--------|---|---------------------------|
| M, M | → | 物質主義者(Materialists) |
| PM, PM | → | 脱物質主義者(Post-materialists) |
| M, PM | → | 中間 |



「M vs. PM」と政治態度・参加:jes3(表5)

	価値観の	物	混	脱	
• 投票率(予定)	77	77	<	88	
• 保守度指標(平均値)	5.7	5.2	<	4.0	
• 政治満足度	17	17	<	20	
• 積極的参加意志	64	<	70	<	76
• 政治回避・否定度	61	<	63	<	75



今日のまとめ

- 「政治文化」を実証的に確認しようとする試みがされてきた
- 定義(概念・作業とも)は多様
- それぞれ、政治的な態度・行動を規程
- 疑問点:
 - 集合体としての文化をとらえようとしている(はずである)が、その対象は個人
- 今後の課題
 - 集合体としての文化をどうとらえるのか